

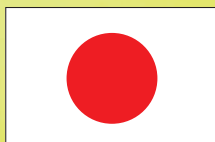
東日本大震災復興支援
とどけよう スポーツの力を東北へ!

2015(平成27)年度

文部科学省国庫補助事業

日・韓・中ジュニア交流競技会

Japan-Korea-China Junior Sports Exchange Meet



公益財団法人
日本体育協会

住所：〒150-8050 東京都渋谷区神南1-1-1
TEL：03-3481-2480 (国際課)
URL：<http://www.japan-sports.or.jp/>

はじめに

日・韓・中ジュニア交流競技会は、アジア近隣諸国との青少年スポーツ交流を促進し、これを通じて相互理解を深め、競技力向上に資するため、1993（平成5）年より日本・韓国・中国による持ち回りで開催されています。

参加選手は、日本・韓国・中国と開催地選抜の4チームからなり、高校生世代では珍しい複数競技による国際的な競技会として発展してきました。

日本選手団は、各競技とも国内競技大会で好成績を収めている高校生世代のトップレベルの選手を中心として編成され、同年代の韓国・中国選手団と毎年熱戦を繰り広げています。

この競技会に参加した選手が、後にオリンピックやその他の国際競技大会で活躍している事例もあり、日本の競技力向上に大きな役割を果たしています。



競技会の前身

【日・韓高校交歓競技会】

1968（昭和43）年から1976（昭和51）年まで、日本（東京）と韓国（ソウル）で交互に開催されました。1977（昭和52）年以後は、両国の各競技団体間で競技別に交流を続けてきました。

【日・韓ジュニア交流競技会】

日・韓高校交歓競技会を引き継ぐ形で、1981年（昭和56年）に第1回競技会が東京都と神奈川県で開催されました。以来、日韓交互に開催し、1992年（平成4年）まで行われました。

【日・中ジュニア交流競技会】

1982（昭和57）年に第1回競技会が千葉県で開催されました。以後、日中交互に開催し、1992（平成4）年までに通算11回実施されました。



開催経緯

1992（平成4）年8月に韓国・中国間の国交が正式に樹立されたことを受けて、両国と交流競技会を開催していた日本は、韓国・中国との3カ国によるジュニア交流競技会の開催を提案しました。同年12月、3カ国の代表（日本体育協会、大韓体育会、中華全国体育総会）が東京にて会議を行い、開催に合意しました。

このジュニア交流競技会は、3カ国の持ち回りで開催することになり、翌1993（平成5）年に第1回日・韓・中ジュニア交流競技会が福島県で開催されました。

第1回から第6回競技会までの実施競技は9競技で、日本と韓国はいずれの競技会もすべての競技に参加していました。中国は第5回競技会まで必ずしもすべての競技に参加していたわけではなく、第6回競技会よりすべての競技に参加することとなりました。

広島県にて開催された第7回競技会からは、バレーボールを加えた全10競技となりました。また、「2002年日中韓国民交流年」記念事業として熊本県で開催された第10回競技会からは、ウエイトリフティング競技を加えた全11競技で実施されています。



第23回競技会開催概要

〈2015（平成27）年度 実施概要〉

事業名	開催地	実施期日
第23回日・韓・中ジュニア交流競技会	韓国・済州特別自治道	8月23日（日）～8月29日（土）7日間

【対象】 選手は、各国の国籍を有する満18歳以下の高校生とする。

〈実施競技および人数構成〉

競技	陸上競技	サッカー	テニス	バレーボール	バスケットボール	ウエイトリフティング	ハンドボール	ソフトテニス	卓球	バドミントン	ラグビーフットボール	本部役員	合計
人数	25	21	11	29	29	20	33	15	13	15	25	8	244

2016（平成28）年 第24回競技会開催地：中国・浙江省寧波市

2017（平成29）年 第25回競技会開催地：日本・茨城県

日・韓・中ジュニア交流競技会 過去競技会開催一覧

回数	開催年	開催国	開催期日	参加選手団及び人数		実施競技
第1回	1993年 平成5年	日本 福島県	8月25日～ 8月30日	日本 182	中国 79	< 9 競技 > 1. 陸上競技 (男女) 2. サッカー (男) 3. テニス (男女) 4. バスケットボール (男女) 5. ハンドボール (男女) 6. ソフトテニス (男女) 7. 卓球 (男女) 8. バドミントン (男女) 9. ラグビーフットボール (男)
				韓国 184	福島県 202	
				合計 647		
第2回	1994年 平成6年	韓国 済州道	8月25日～ 8月30日	日本 182	中国 103	
				韓国 185	済州道 166	
				合計 636		
第3回	1995年 平成7年	中国 唐山市	8月25日～ 8月30日	日本 183	中国 195	
				韓国 186	唐山市 93	
				近隣諸国 154		
				合計 811		
第4回	1996年 平成8年	日本 長崎県	8月25日～ 8月30日	日本 183	中国 142	
				韓国 191	長崎県 206	
				合計 722		
第5回	1997年 平成9年	韓国 忠州市	8月25日～ 8月30日	日本 181	中国 82	
				韓国 185	忠清北道 169	
				合計 617		
第6回	1998年 平成10年	中国 石家庄市	8月25日～ 8月30日	日本 194	中国 201	
				韓国 199	河北省 108	
				合計 702		
第7回	1999年 平成11年	日本 広島県	8月25日～ 8月30日	日本 213	中国 215	
				韓国 214	広島県 238	
				合計 880		
第8回	2000年 平成12年	韓国 全州市	8月23日～ 8月29日 ^{※2}	日本 211	中国 201	
				韓国 216	全羅北道 193	
				合計 821		
第9回	2001年 平成13年	中国 瀋陽市	8月23日～ 8月29日	日本 230	中国 216	
				韓国 214	瀋陽市 150	
				合計 810		
第10回	2002年 平成14年	日本 熊本県	8月23日～ 8月29日	日本 230	中国 226	
				韓国 230	熊本県 249	
				合計 935		
第11回	2003年 平成15年	韓国 済州道	8月23日～ 8月29日	日本 236	中国 245	
				韓国 243	済州道 208	
				合計 932		
第12回	2004年 平成16年	中国 長春市	8月23日～ 8月29日	日本 239	中国 242	
				韓国 234	長春市 153	
				合計 868		
第13回	2005年 平成17年	日本 北海道	8月23日～ 8月29日	日本 241	中国 242	
				韓国 239	北海道 290	
				合計 1012		
第14回	2006年 平成18年	韓国 大邱広域市	8月23日～ 8月29日	日本 252	中国 249	
				韓国 235	大邱市 206	
				合計 942		
第15回	2007年 平成19年	中国 桂林市	8月23日～ 8月29日	日本 252	中国 246	
				韓国 240	広西桂林 155	
				合計 893		
第16回	2008年 平成20年	日本 千葉県	8月23日～ 8月29日	日本 254	中国 240	
				韓国 238	千葉県 231	
				合計 963		
第17回	2009年 平成21年	韓国 浦州市	8月23日～ 8月29日	日本 246	中国 247	
				韓国 239	全羅南道 220	
				合計 952		
第18回	2010年 平成22年	中国 鄭州市	8月23日～ 8月29日	日本 257	中国 251	
				韓国 238	河南鄭州 154	
				合計 900		
第19回	2011年 平成23年	日本 愛知県	8月22日～ 8月28日	日本 261	中国 239	
				韓国 247	愛知県 235	
				合計 982		
第20回	2012年 平成24年	韓国 光州広域市	8月23日～ 8月29日	日本 254	中国 253	
				韓国 238	光州市 218	
				合計 963		
第21回	2013年 平成25年	中国 濰坊市	8月23日～ 8月29日	日本 257	中国 249	
				韓国 244	濰坊市 234	
				合計 984		
第22回	2014年 平成26年	日本 岩手県	8月23日～ 8月29日	日本 264	中国 244	
				韓国 242	岩手県 240	
				合計 990		

〔備考〕各国選手団人数は視察員・帯同コーチ等を含む

※1 バレーボールは日本（広島）の希望により、第7回競技会から実施。競技数が10競技となった。

※2 開催期日は、3カ国の同意に基づき、第8回競技会から8月23日から29日の7日間で実施。（第1日は到着のみとし、期間を1日延長）

※3 ウェイトリフティングは日本の希望により、第10回競技会から実施。競技数が11競技となった。

宣言しよう、フェアプレイ。

宣言しよう。
全力をつくし、挑戦し、
楽しむことを。

宣言しよう。
仲間を信じ、思いやることを。

宣言しよう。
約束を守り、応援してくれる人への
感謝を忘れないことを。

その誓いは、スポーツを
もっと楽しいものにしてくれる。
日々の生活を
もっとすがすがしいものにしてくれる。

そして多くの人々を活気づけ、
今の日本を元気にするチカラにも
なってくれる。

さあ、あなたも手を胸に。
フェアプレイの誓いを。

フェアプレイで
日本を元気に

あくしゅ、あいさつ、ありがとう



「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンで、
フェアプレイの輪を広げ、日本をもっと元気に!

あなたもはじめの一步を、まずはホームページで。

[フェアプレイ宣言](#)

[検索](#)



日本体育協会は、スポーツ立国の実現のため、国民体育大会をはじめとする各種スポーツ大会の実施やスポーツ指導者の育成等を行うとともに、スポーツの持つ価値や意義を広くアピールし、国民の生きる力の育成と活力ある社会の構築に貢献していきます。また、日本をもっと元気にしたい。その想いから、「フェアプレイ宣言」推進の取り組みも行っていきます。



公益財団法人

日本体育協会

わたしたちは、「フェアプレイで日本を元気に」キャンペーンを応援しています。

 大塚製薬



三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP

LAWSON

LOTTE

SUNTORY

KOSAIDO